

## 今日のトピック サウジの石油施設が攻撃され、原油生産が停止 原油価格は大幅上昇、海外株式はリスク回避で下落

### ポイント1 サウジの石油施設が炎上 世界の約5%相当の原油生産が停止

- 9月14日にサウジアラビアの石油関連施設2カ所が攻撃を受け炎上し、原油の生産が停止しました。サウジアラビア政府によると、この被害を受けた原油の生産停止量は日量570万バレルで、サウジアラビアの通常の生産量の約半分に及びます。
- サウジアラビアは世界有数の産油国で、世界の原油供給の約1割を占めます。今回の攻撃で世界の原油生産の約5%に相当する量の生産が止まったこととなります。

### ポイント2 世界の原油需給はひっ迫へ 生産停止が長期化すると影響大

- 原油市場では需要/供給バランスのわずかなずれが価格の変動につながります。世界の約5%に相当する原油生産の停止は、原油市場にとって極めて重大なイベントと考えられます。
- また、攻撃前の時点でも、石油輸出国機構（OPEC）加盟国および非加盟国の主要産油国の協調減産により、石油の需給が引き締まると見込まれていたため、今回の生産停止の影響は大きくなる可能性があります。特に生産停止が長期化する場合、その影響は一層大きくなります。現時点では、被害を受けた生産の半分を回復するのに数週間から数カ月を要するとの報道もあります。

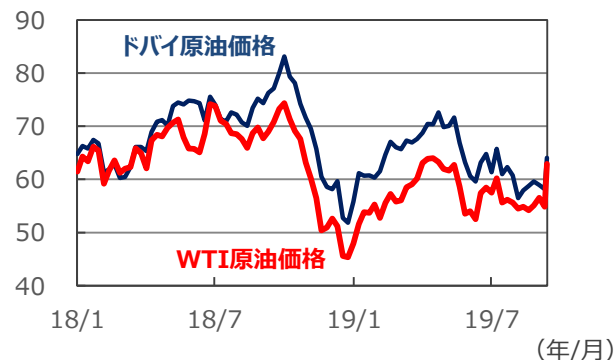
### 今後の展開 中東の地政学的リスクが顕在化

- 今回の攻撃は中東の地政学的リスクの顕在化といえます。16日の金融市場は、原油価格が大幅に上昇する中、リスク回避の動きが強まり、米国株式（NYダウ指数）は前日比▲0.5%の27,076.82ドルで引けました。
- また、イエメンの武装勢力が攻撃を実行したと主張していますが、米国はイランの主体的な関与を示唆していません。今後、米・サウジ側が報復として軍事行動をとる可能性もあり、中東は地政学的リスクが高まっています。

**ここもチェック!** 2019年8月28日 軟調に推移する原油価格（2019年8月）  
2019年7月22日 足元で下落に転じた原油価格（2019年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

(ドル/バレル) 【WTIとドバイ原油価格】



(注) データは2018年1月5日～2019年9月16日。ともに週次データ。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
<b>世界需要</b>	<b>98.8</b>	<b>99.9</b>	<b>101.1</b>
<b>供給</b>	<b>99.0</b>	<b>99.9</b>	<b>101.1</b>
非OPEC	67.2	69.2	71.6
OPEC	31.9	30.7	29.4
<b>需給バランス</b>	<b>0.2</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス=供給-需要。  
(注2) 単位は百万バレル（日量）。  
(注3) 2018年は実績。2019年、2020年はOPECによる予想。ただし、2019年と2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 2019年8月の「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成